

# 自動運転最新研究動向セミナー

日時 平成31年3月13日（水）14:00～16:30

会場 文部科学省 研究交流センター 2階 第一会議室（つくば市竹園2-20-5）

定員 30名・先着順（申し込み締め切り：3月11日（月）17時まで）

参加費 無料

## プログラム

### 14:00 開会

### 14:05 講演1 『自動運転の実用化に向けたJARIの取り組み』

一般財団法人日本自動車研究所 ITS研究部 部長 谷川 浩 氏

自動運転の早期実用化は、交通事故死者低減など国家目標達成のための重要課題となっており、技術開発だけでなくルール整備や社会受容性の確立など産官学一体となって取り組まれています。JARIでは、自動運転の安全性評価方法の確立や、自動運転技術の早期実用化に向けた駐車場（限定空間）での無人自動バレーパーキングシステムの開発などに取り組んでおり、最新のトピックスを交えて紹介させていただきます。



#### 〈講師プロフィール〉

1983年トヨタ自動車に入社、エンジン用電子制御システム、センサー、車内LAN、ソフトPFなどの開発や国際標準化活動等に従事。自動車メーカー・サプライヤー連携テーマの企画から共同開発やビジネスの仕組みづくりなどを幅広く経験し、2004年にJaspar設立にも参画した。2006年頃から安全・環境・ITSなど先進的な制御システム開発の仕組み作りや先行開発業務に従事。2013年5月から日本自動車研究所ITS研究部に籍を置き、自動走行関係を中心とした事業の企画や研究推進に取り組み、現在に至る。

### 15:05 講演2 『安全で受容性の高い自動運転技術を目指して』

国立研究開発法人産業技術総合研究所

自動車ヒューマンファクター研究センター 研究センター長 北崎 智之 氏

激化する自動運転技術開発競争において、当面はレベル2、3の部分的、条件付き自動運転が主流となると考えられています。一方で関連技術を搭載した車の事故が報告されています。自動運転技術により、交通事故を飛躍的に低減するためには、人間の特性や限界を理解し、それを補うように技術や社会制度を設計する“人間中心の設計”が重要です。本講演においては、「SIP自動走行システム」ヒューマンファクター研究プロジェクトにおける取り組みを紹介します。



#### 〈講師プロフィール〉

1985年京都大学大学院修士課程を修了し、日産自動車(株)入社。HMI、運転支援、乗り心地、車酔い、シート座り心地、高齢ドライバー支援など、人間工学が関わる分野の研究開発と技術戦略企画に従事。1995年Southampton大学(英国)にてPh.D.を取得。2012～2015年米国Iowa大学教授。高齢ドライバー、病気と運転、自動運転のヒューマンファクター等の研究に従事。2015年より現職。

15:50 質疑, アンケート記入, 名刺交換 (16:30 終了)

## 会場アクセス

会場

文部科学省 研究交流センター  
(所在地：つくば市竹園2-20-5)

駐車場

建物の裏手に駐車場がございます。お車でお越しの場合は、左図の矢印に従って駐車場に移動し、駐車してください。



## お申し込み・お問い合わせ

- お申し込み方法：参加を希望される方は、メールまたはFAXにて下記までお申し込みください
- お申し込み期限：平成31年3月11日（月）17時まで（定員に達した時点で締め切り）
- 定員30名・先着順・参加費無料（いばらき成長産業振興協議会の会員企業を優先します）

3月13日

自動運転最新研究動向セミナー

## 参加申し込み書

会社名/団体名			
所在地/住所	〒		
電話番号			
メールアドレス			
お名前	所属・役職	氏名	
	所属・役職	氏名	
所属研究会 (いずれかに○)	次世代自動車 研究会 会員	他の研究会 (協議会会員)	非会員 (協議会に入会)

### 【お申し込み・お問い合わせ先】

いばらき成長産業振興協議会 次世代自動車研究会 事務局  
(株式会社ひたちなかテクノセンター) 担当：三浦 藤原

TEL：029-264-2200 FAX：029-264-2203

メール：miura@htc.co.jp（三浦）， fujiwara@htc.co.jp（藤原）